

日本語学会第 166 回大会 プログラム

会 長 福井 直樹
大会運営委員長 松浦 年男
大会実行委員長 長谷川 宏

期 日：2023 年 6 月 17 日（土）・18 日（日）

会 場：専修大学 神田キャンパス 10 号館（東京都千代田区）および録画配信

問い合わせ先：hasegawa@isc.senshu-u.ac.jp

※参加受付はオンライン（Peatix）もしくは現地にて行います。ただし、円滑な運営のため Peatix にて、事前受付・支払いへご協力願います。詳細は 7 ページをご覧ください。

※参加登録をされた方にのみ、口頭発表およびワークショップの録画およびポスターファイルを大会後の一定期間、公開します（W-1 の配信はありません）。

※公開特別シンポジウムは、どなたでもご参加いただけます。また、後日 YouTube 配信いたします。



— 第 1 日（6 月 17 日） —

10:30-12:10	評議員会	16F 相馬永胤 ^{ながたね} 記念ホール
12:00-	受付	3F ロビー
13:00-16:00	口頭発表（詳細は 2-3 頁にあります。）	3F~5F
16:15-17:45	ポスター発表（詳細は 3 頁にあります。）	6F 10061・10062 教室
17:45-18:45	参加者交流会（無料。詳細は 7 頁にあります。）	6F 10061・10062 教室

— 第 2 日（6 月 18 日） —

9:30-	受付	3F ロビー
10:00-12:00	ワークショップ（詳細は 4-5 頁にあります。）	3F~5F および 8F
13:10-13:50	会長挨拶，日本語学会学会賞授賞式，会員総会	3F 黒門ホール
14:00-17:00	公開特別シンポジウム「言語学から見た子どもの英語習得」 <司会・趣旨説明> 尾島 司郎（早稲田大学） <登壇者> 「小学生の大規模脳科学研究で見えてきた英語学習開始年齢と接触時間の影響」 尾島 司郎（早稲田大学） 「インターナショナルスクールと『おうち英語』の学習環境・国語力」 柴田 奈津美（専修大学） 「どのくらい流暢に話せるのか？ インター・『おうち英語』・大学生を比較して」 三浦 篤史（早稲田大学） 「子どもは英文法知識をどのように習得していくか？（1）—Wh 疑問文と関係節に着目して—」 広瀬 友紀（東京大学） 「子どもは英文法知識をどのように習得していくか？（2）—複雑な名詞句を使うようになるまで—」 田中 広宣（東京大学）	3F 黒門ホール

■口頭発表（6月17日(土) 13:00-16:00)

	A会場 10031 教室 司会：[1-2] 白井 聡子, [3-5] 小野 智香子	B会場 10041 教室 司会：[1-2] 浅原 正幸, [3-5] 米山 聖子
13:00-13:30	[A-1] 今西 一太 アミ語における主要部内在型関係節の再解釈と格標識・リンカーの関係	[B-1] 佐近 優太 インドネシア語の接頭辞 di-受身文における動作主標示形式について
13:35-14:05	[A-2] 田中 皓也 意志性によるビルマ語動詞の分類	[B-2] 鈴木 唯 トルコ語における補文節内の示差的主語標示
14:05-14:20	(休憩)	(休憩)
14:20-14:50	[A-3] 吉田 樹生 シンハラ語の焦点標示と二つの対比性: 実験的研究	[B-3] 熊谷 学而 女性アイドルのニックネームにおける接尾辞「ちゃん」のバリエーションに関する音象徴的分析
14:55-15:25	[A-4] 日高 晋介 ウズベク語における命題的モダリティを表す分析的表現の相互承接—主観性に注目して—	[B-4] 土川 京子 英語話者による日本語拗音の借用パターン
15:30-16:00	[A-5] 小田桐 奈美, アクマタリエワ ジャクシルク キルギス語のエコーワード	[B-5] 有賀 照道, 松原 理佐 日本語アクセントが母音の長短の知覚に与えるトップダウン効果

	C会場 10051 教室 司会：[1-2] 矢野 雅貴, [3-5] 小町 将之
13:00-13:30	[C-1] 太田 真理, 中島 潤, 山田 絵美 単語内部の階層構造を反映した周期的な脳活動の増大：脳波による研究
13:35-14:05	[C-2] 峰見 一輝 「かどうか」による <i>wh</i> 句の錯覚的認可—時間制限付き容認性判断実験—
14:05-14:20	(休憩)
14:20-14:50	[C-3] 高嶋 由布子, 有光 奈美 日本手話の断り・謝罪談話のポライトネス・ストラテジー
14:55-15:25	[C-4] 井戸 美里, 窪田 悠介 限定のダケと対比のハに基づく、ダケハの意味の構成的分析
15:30-16:00	[C-5] Tatsuhiro Matsuda A non-movement approach to Japanese sluicing

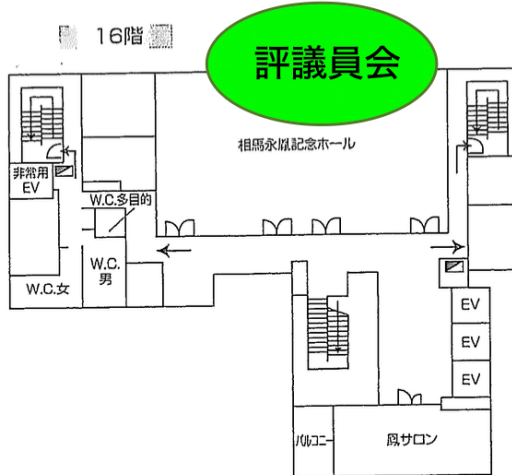
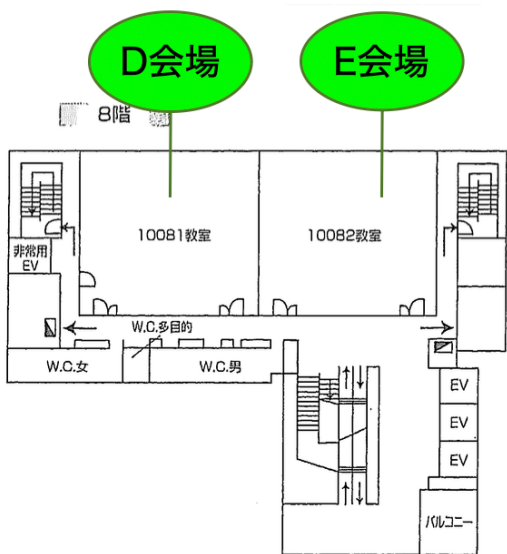
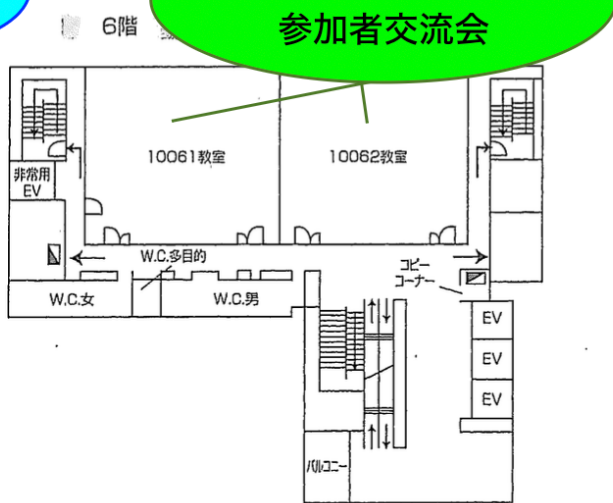
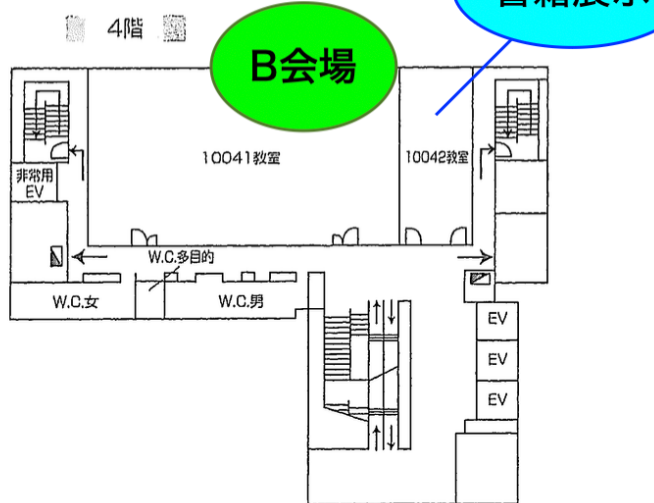
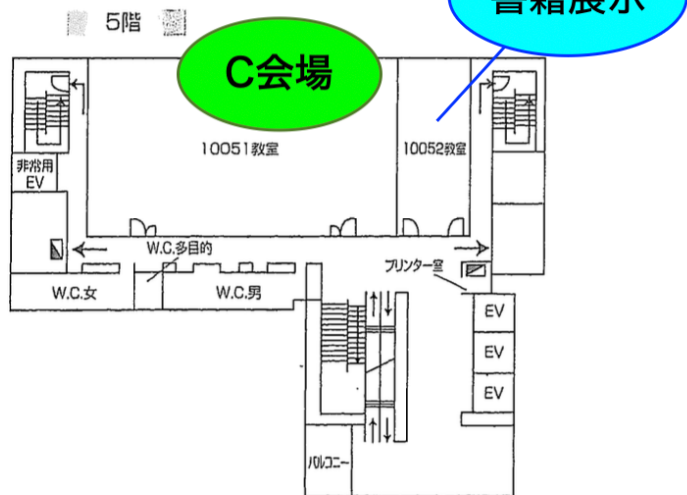
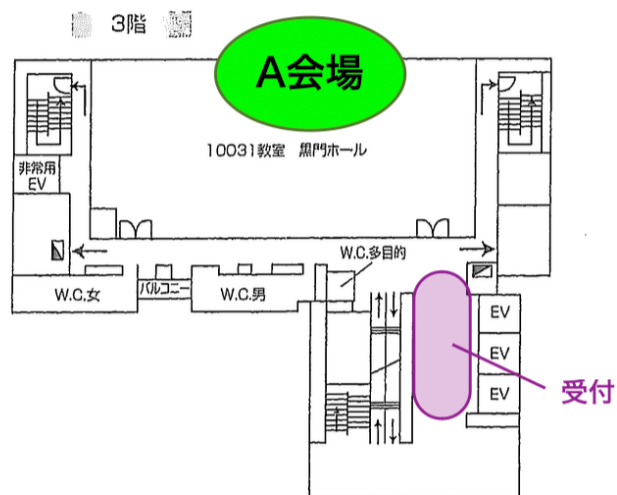
■ポスター発表 (6月17日(土) 16:15-17:45)

<p>会場 10061・ 10062 教室</p>	<p>[P-1] 廣澤 尚之 Thetic vs. Categorical の対立における Event-reporting 文の位置付け: 日本語諸方言における主題助詞・主格助詞の出現と韻律句形成から</p>	<p>[P-2] 山田 洋平, エンフアムガラン オノン ハルハ・モンゴル語の複数接辞 -Uud と接辞境界に現れる子音 n</p>
	<p>[P-3] 石川 さくら ベンガル語の [主格主語 分詞 GO/FALL] 構文: 逆使役としての分析</p>	<p>[P-4] 諸隈 夕子 アヤクーチョ・ケチュア語における非未来体言化と未来体言化の非対称性</p>
	<p>[P-5] 菅谷 友亮 直示用法における指示詞の選択原理に関する比較・対照研究—オンライン実験調査</p>	<p>[P-6] 牧 秀樹, ゼステルバ, 牧 レオナ 中国西南官話湘西小片における属格主語</p>
	<p>[P-7] 深谷 康佳 ケラビット語のオンライン辞書構築についての経過報告: フィールドワークのデータから、話者コミュニティと研究者が使用できる辞書を目指して</p>	<p>[P-8] 廉田 浩 深層学習型 AI 言語生成が言語基盤研究に与える影響の評価</p>
	<p>[P-9] Michael Yoshitaka ERLEWINE, Carly J. SOMMERLOT Malayic active voice <i>meN-</i>: One prefix or two?</p>	<p>[P-10] 伊藤 克将 ドイツ語の感嘆文における虚の否定辞: 形式意味論による分析</p>
	<p>[P-11] 石原 佳弥子 省略が可能な「のだ」の考察—新書テキストを素材として—</p>	<p>[P-12] 菅野 悟 付加詞節内部からの抜き出しと CP フェーズ</p>
	<p>[P-13] 森 貞 日本語複合動詞(V1+V2)において V1 受身形を可能にする認知的要因について—V2 が「尽くす」「直す」「返す」の場合—</p>	<p>[P-14] Siyu LI, Hiromune ODA Structural reduction of parenthetical "I mean" at an intermediate stage of grammaticalization</p>
	<p>[P-15] 川浪 拓也ティモスィー 中期・後期ヒッタイト語の名詞句所有構文の再検討</p>	<p>[P-16] 山部 順治 オリヤ語の非同一致指示規則</p>
	<p>[P-17] 阪口 慧 形容詞無助詞文と二価志向性の関連について</p>	<p>[P-18] 伊藤 創 焦点をあてる事態参与者の選択の獲得時期について</p>
	<p>[P-19] 熊切 拓 アラビア語チュニス方言の語りにおける等位接続詞の機能</p>	<p>[P-20] Yukie HARA Atelicity by Plural Noun in VP and Its Effect on Grammatical Aspect in Sentence Processing</p>
	<p>[P-21] 内堀 朝子, 上田 由紀子 日本手話(愛媛方言)に見られる様態副詞の非手指形態素の波及と RS 領域</p>	<p>[P-22] Akitaka YAMADA, Taika NAGANO The 'passivized' high applicative construction in Japanese</p>
	<p>[P-23] 千田 聡美 日本語とマラーティー語の条件表現の対照</p>	<p>[P-24] 田中 優生 「最終手段」戦略の例としてのフランス語の <i>c'est</i> 分裂文: 対照的な観点から</p>
	<p>[P-25] 山口 航輝, 太田 真理 日本語における繰り上げ文とコントロール文の空範疇処理について</p>	<p>[P-26] 北村 萌 ドマリ語エルサレム方言の完了動詞に見られる変則的な一致標示</p>
	<p>[P-27] 李 仁治 漢語泗水方言の動物語彙の語形成についての考察</p>	<p>[P-28] 峯島 宏次, 窪田 悠介, 宮尾 祐介, 窪田 愛, 船蔵 颯 多言語に対応した汎用的な構成的意味論の計算フレームワークの構築</p>
<p>[P-29] 磯野 真之介 逐次的な文理解における文構造のつながり (connectedness)の限界と記憶の負荷</p>		

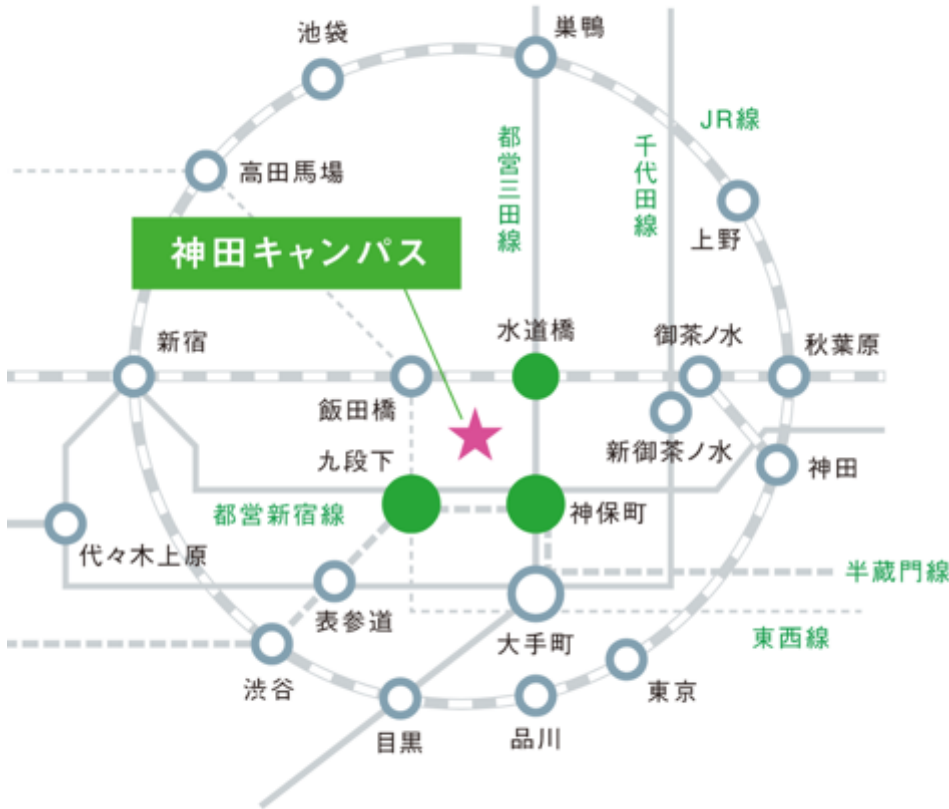
■ワークショップ (6月18日(日) 10:00-12:00)

A 会場 10031 教室	[W-1] 手話言語学の視座と現況：マイノリティ言語を研究するということ*	企画者・司会者: 松岡 和美
	[W-1-1] 手話の進化と地域共有手話	矢野 羽衣子
	[W-1-2] 焦点研究から考える手話の理論研究	平山 仁美
	[W-1-3] メタファーと図像性	高嶋 由布子
	[W-1-4] 類型論の立場から数の表現を考察する	相良 啓子
B 会場 10041 教室	[W-2] チュルク諸語の副動詞にまつわる諸問題 —節連結・副詞句・複雑述語— 企画者: 日高 晋介 司会者: アクマタリエワ ジャクシルク コメントーター: 江畑 冬生	
	[W-2-1] チュヴァシ語における条件副動詞の短形と長形	菱山 湧人
	[W-2-2] キルギス語における副動詞の副詞的用法	アクマタリエワ・ジャクシルク
	[W-2-3] カラチャイ・バルカル語の補助動詞 -(I)b iy-, -(I)b kal-, -(I)b koy- に関する対照研究	菅沼 健太郎
	[W-2-4] 中央アジアのチュルク諸語における V-(I)p bol- [V-CVB be-]	日高 晋介
C 会場 10051 教室	[W-3] Copy Formation が織りなす諸現象の表出: Enabling Function の役割を中心に 企画者・司会者: 宗像 孝	
	[W-3-1] 統辞構造の演算時における移動の優位性: 項位置を中心に	宗像 孝
	[W-3-2] 同族目的語構文の派生について	北田 伸一
	[W-3-3] 検索 Σ とコピー形成と一致について	大宗 純
	[W-3-4] 検索 Σ の帰結と展望	大宗 純, 小町 将之
D 会場 10081 教室	[W-4] 「南の言語」の派生形態論 —台湾南島諸語の語彙的接頭辞の多様性— 企画者: 野島 本泰 司会・コメントーター: 林 範彦	
	[W-4-1] ブヌン語とその周辺言語の語彙的接頭辞	野島 本泰
	[W-4-2] パイワン語とその周辺言語の語彙的接頭辞	大谷 青渚
	[W-4-3] アミ語とその周辺言語の語彙的接頭辞	今西 一太
E 会場 10082 教室	[W-5] 第二言語における副詞の使用: 日英語学習者コーパスを用いた多角的分析から見えること 企画者・司会者: 朴 秀娟 コメントーター: 砂川 有里子	
	[W-5-1] 日本語学習者による話し手の評価・感情を表す副詞の産出: 習熟度別にみた叙法副詞の使用傾向の分析	朴 秀娟
	[W-5-2] 日本語学習者による様態を表すための副詞の産出: 学習者の母語と第二言語での移動・状態の描写における副詞的要素の比較分析	吉成 祐子
	[W-5-3] 英語学習者の副詞使用の特徴: 日本語学習者の特徴との比較	眞野 美穂

* W-1 は会場での実施のみで、録画配信はありません。



◆路線図・キャンパス周辺図



神田キャンパス

- JR線
水道橋駅
西口より徒歩7分
- 東京メトロ東西線、半蔵門線、都営地下鉄新宿線
九段下駅
「5」出口より徒歩1分
- 東京メトロ半蔵門線、都営地下鉄新宿線、三田線
神保町駅
「A2」出口より徒歩3分



お知らせ

◆参加登録および受付

大会参加費はオンライン（Peatix）または大会受付にてお支払いください。参加費は、一般会員 2,000 円、学生会員 1,000 円、一般非会員 3,000 円、学生非会員 2,000 円です。オンラインでの後日配信をスムーズにご覧いただくためにもオンラインでの事前登録にご協力お願いします（要アカウント作成）。事前登録期間は、5月8日(月)から6月14日(水)17時です。6月14日以降もオンライン登録はできますが、会場での受付手順が変わりますのでお早めにご登録ください。

参加登録用ページ <https://lsj166.peatix.com>

◆予稿集

予稿集は大会の1週間前より学会ホームページから電子版予稿集（PDF ファイル）がダウンロードできるようになりますので、事前にダウンロードをお済ませください。紙媒体での予稿集頒布は行っておりません。

◆出張依頼状

所属機関長宛の出張依頼状をご入用の方は、返送先を明記して切手を貼った返信用封筒を同封の上、6月1日(木)（必着）までに学会事務支局までお申し込み下さい。

◆大会期間の昼食

大学内の食堂は、土曜・日曜ともに営業していません。各自昼食はご準備下さい。

◆参加者交流会

17日のポスター発表終了後に同会場に参加者交流会を実施します。ソフトドリンクと軽食を提供します。無料でご参加いただけますのでふるってご参加下さい。

◆保育室の設置

保育室を設置します。保育室の利用を希望される方は、学会ホームページ「保育室の設置について」をお読みになった上で、4月22日(土)から5月20日(土)までに保育室担当宛(lsj.childcare@gmail.com)に御連絡下さい。

- ・利用可能時間:6月17日(土)12:45-18:00, 6月18日(日)9:50-17:20
- ・料金:お子様1人あたり1時間につき500円

◆手話通訳などについて

手話通訳や字幕表示の支援を必要とされる方は、5月19日（金）までに学会事務支局（lsj@nacos.com）にお申し出ください。

◆書籍展示

書籍展示は、4階10042教室、5階10052教室で行う予定です。

◆資料展示コーナー

会員相互の情報交換のための資料展示スペースを用意します。会員に紹介したい学会、研究会、講演会のパンフレット等を置くことができますのでご利用下さい。（配布物は当日受付にご持参下さい。）

◆大会予稿集、『言語研究』のバックナンバー

大会予稿集および『言語研究』のバックナンバーは郵送での注文を受け付けております。購入をご希望の方は、在庫状況を学会ホームページでご確認の上、学会事務支局までお申し込み下さい。

安全な大会実施のためにも現地参加の方は各自の判断で必要な対策をお取りください。

事務局からのお知らせ

日本言語学会では、2019年度より、言語学の研究・教育および学会運営にあたって依拠すべき倫理上の基本原則と理念を「日本言語学会倫理綱領」（以後「倫理綱領」）として決めました。制定に至った背景の1つに、2018年8月に開催された「夏期講座2018」で発生したハラスメント事件があります。学会として、このような事態を二度と起こしてはならないという強い決意のもと、倫理綱領制定のための部会で原案を作成し、常任委員会、そして評議員会で議論の上、制定した次第です。倫理綱領は研究大会を含む学会活動すべてに関わるものです。日本言語学会の会員であるかどうかに関わらず、倫理綱領を遵守していただくことが本大会参加の条件となることを認識いただいた上で、大会に参加いただきますよう、よろしくお願い致します。

倫理綱領の内容については、日本言語学会ウェブサイトを確認してください。

<http://www.ls-japan.org/modules/documents/rules/15.pdf>



次回大会予告（2023年秋季大会：第167回大会）

場 所：同志社大学 京田辺キャンパス

日 程：2023年11月11日(土)・12日(日)

公開シンポジウム，口頭発表，ポスター発表，ワークショップ

研究発表募集：学会ホームページから発表申し込みができます。

・発表応募締め切り 2023年8月20日(日)（必着）

・採否通知 2023年9月中旬

問い合わせ先

日本言語学会事務支局 〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入

Tel. (075) 415-3661, Fax. (075) 415-3662, E-mail: lsj@nacos.com